

(2) 公園計画イメージスケッチ



鳥瞰パース

図中の番号はイメージスケッチの視点方向をあらわしています。



エントランスから東方(拡張予定地方面)のイメージ



草地の広場から西方(古墳方面)のイメージ

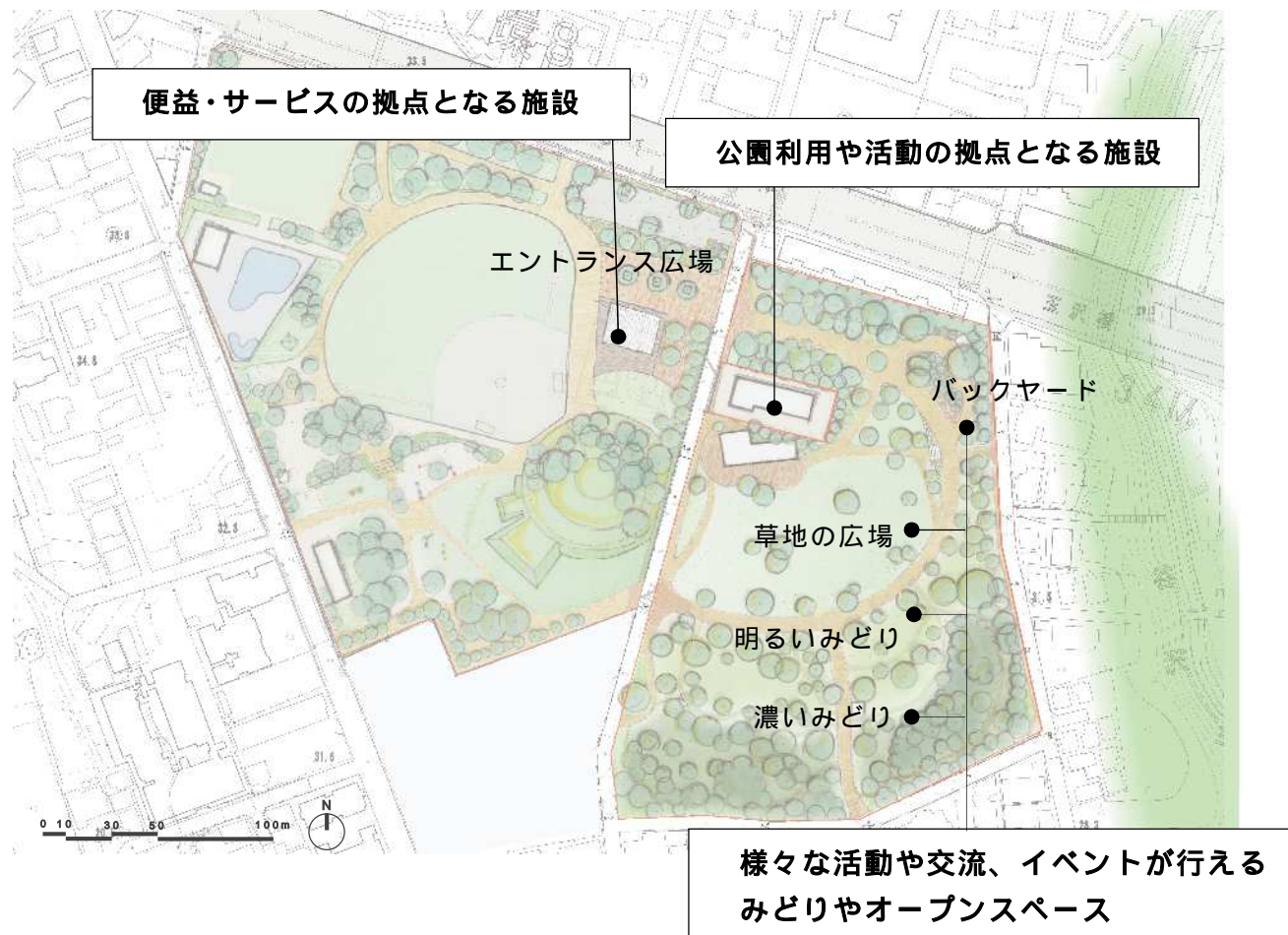


明るいみどり、濃いみどりのイメージ

7. 公園の整備イメージ

(1) ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり

公園を身近な暮らしの舞台としてとらえ、多様な区民の参画による様々な活動や交流・イベントが行える「みどりのオープンスペース」や「公園利用や活動の拠点となる施設」とその活動を支える「バックヤード」を設けます。あわせて、日常的な公園利用の楽しみが広がり公園の魅力を高める「便益・サービスの拠点となる施設」とエントランス広場を設けます。



開放的な建物
(桜丘すみれば自然庭園)



(二子玉川公園ビジターセンター)

公園利用や活動の拠点となる施設の外部イメージ

整備イメージ

○導入施設や取組のイメージ

公園利用や活動の拠点となる施設

軽飲食、休憩などの気軽な公園利用をはじめ、みどりや歴史・文化、安全・安心、防災活動など日々様々な住民参加による活動、交流、イベントが開催できる拠点となる施設を検討します。



広場とつながる屋内のコミュニティスペース
(カフェといるびより)



活動の拠点となるスペース
(二子玉川公園：ビジターセンター)

公園利用や活動の拠点となる施設の内部イメージ

便益・サービスの拠点となる施設

民間事業者等による飲食や物販などの施設の導入を検討し、日常的な公園利用の楽しさを上げます。

導入にあたっては、防災機能、環境性能、地産・地消、農業振興の他、地域の特性など公共空間にふさわしい付加を民間事業者と共に創出していきます。



導入イメージ
(二子玉川公園：カフェ)

様々な活動や交流・イベントが行えるみどりやオープンスペース

草地の広場や明るいみどり、濃いみどりは、使い方を限定するような施設は配置せず、子どもから大人まで利用目的に応じて色々な使い方ができる公園の設えとします。また、公園の利用や活動のための道具置き場や作業スペースなど、森づくりや様々な活動を支える施設をつくります。

(2) みどりとみずのネットワークづくり

既存のみどりやオープンスペースをいかし、「草地の広場」や「明るいみどり」、「濃いみどり」といった多様なみどりをみんなで作って、育てます。既開園区域や等々力溪谷と連坦したみどりの拠点、生きもの拠点を形成し、四季折々みどりを楽しめ、生きもの豊かな環境づくりを行います。



整備イメージ



イメージ断面図